

コルトーと川棚の物語

昭和27(1952)年、世界的ピアニスト アルフレッド・コルトー(1877-1962)が初来日。山口県の宇部と下関公演の際に宿泊した川棚温泉のホテルから見える景色に魅了され、「こんなに美しい夢のような風景は見たことがない。なぜか外国にいる感じがしない。日本はブレ・ペイ(本当の国)だ。」と言い残した。

響灘に浮かぶ厚島に魅せられたコルトーは、当時の川棚村長に「天国のようなあの島でこっそり死にたい。ぜひ買いとりたい」と交渉。村長は大変驚きましたが、その熱心さに心打たれ、「あの島に永久にお住みになるなら無償で差し上げましょう」と快諾。「私の思いはひとりあの島に残るだろう」とつぶやいたそうです。また、島の名前を「孤留島(コルトー)」と命名することも提案されました。

川棚村長は碑文の揮毫をコルトーに依頼し、コルトーは「この上なく美しいこの島に、友情によって書かれたこの碑文が、願わくば絶えず夢の中に住む精神を持ったいちフランス人音楽家の思いをいつまでもとどめておく事ができますように」と記し、自らの信条として「音楽は精神の炎を噴出させねばならぬ」というベートーヴェンの言葉を日本の音楽学徒に残しました。

コルトーは再来日を果たせないまま50年前の1962年にこの世を去りました。それから随分と時間が流れ、2003年にコルトーがパリに設立したエコール・ノルマル音楽院から川棚のホテルへ一本の電話が入りました。生前コルトーが周囲に話していた「カワタナの夢の島」と川棚の厚島が結びつき、再び物語がよみがえりました。日仏交流150周年にあたる2008年11月、エコール・ノルマル音楽院と下関市とのパートナーシップが締結されました。2010年1月隈研吾氏設計の川棚温泉交流センター・川棚の杜の中に「コルトーホール」が誕生し、毎年「川棚・コルトー音楽祭」が開催されています。

そして、コルトー没後50年・来日60周年にあたる今年2012年は「コルトーWメモリアルイヤー」として、コンサートやシンポジウムなど様々な記念イベントを実施。命日の6月15日には、コルトーに心を寄せる皆さんと一緒に「追悼の集い」が行われ、天国のコルトーを偲びました。

コルトーの魂は、彼のもう一つの故郷である川棚にやっと帰りついたのかもしれない。

音楽は精神の炎を噴出させねばならぬ
ベートーヴェン

dont l'esprit ne cessera de R. Rabi Fern
en 2èrè ...

A. Cortot
Octobre 1952



写真/コルトーが1952年10月7日から3泊滞在した川棚観光ホテル

コルトー 没後50年 Wメモリアルイヤー
来日60周年

記念シンポジウム

いま、
アルフレッド・コルトーから
受け継ぐべき
魂



私の思いはひとりあの島へ残るだろう。



写真/コルトーが滞在した川棚観光ホテル跡地に誕生した川棚の杜・コルトーホール(隈研吾氏設計)から孤留島を望む

2012.10月8日[月・祝]

会場/川棚の杜・コルトーホール

開場13:00/開会13:30/閉会16:00

入場料/無料 [定員200人(先着順)]

■申込方法/住所、氏名、電話番号を書いて、直接又は電話、ファックス、Eメールで川棚の杜までお申し込み下さい。

■申 込 先/電話083(774)3855 FAX 083(774)3856
E-mail cortot@kawatana.com

■申込期間/平成24年9月1日(土)～
平成24年9月30日(日)[必着]



下関市川棚温泉交流センター
コルトーホール/鳥山民俗資料館

主催/コルトー音楽祭実行委員会 後援/総務省 豊浦町観光協会 川棚温泉観光協会 [この事業は全国モーターボート競走旅行者協議会からの拠出金を財源としています]